

県内でマダニ媒介感染症が急激に増加しています！！

鳥取県内でマダニに媒介される感染症、特に日本紅斑熱が9月以降急増しています。マダニに刺されないよう予防対策に注意してください。

1 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

時期	地区	経過
6月	大山町	西伯郡在住の住民が40℃近い高熱、血小板減少、白血球減少、肝機能障害。大山町内で山林管理作業に従事し左足にダニに刺された痕あり。
8月	鳥取市	鳥取市在住70代。39℃台の高熱、血小板減少、白血球減少、肝機能障害。発症前に、山林で複数回作業歴あり。
参考 6月	広島県	広島県内でSFTS陽性の猫を診察・治療した獣医師が感染。当該猫の体液に接触しており、11日後に発熱、全身倦怠等の症状を発症。当該猫は死亡。

《SFTSについて》

平成23年に中国で初めて特定されたSFTSウイルスに感染することにより惹起される病気で、多くの場合ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染する。国内では、平成25年に山口県において国内初の感染事例が確認され、平成29年には徳島県において、犬から人への感染事例が報告されたが、マダニに刺された痕跡がなく感染経路は不明。

（主な症状） マダニに刺されてから6日から2週間程度の潜伏期を経て、発熱、消化器症状（吐気、嘔吐、下痢、腹痛等）、時に頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹

（対処方法） 対症療法のみで、有効な薬剤やワクチンはないため、予防策が重要

2 日本紅斑熱

時期	地区	経過
6月	岩美町	町内在住の住民が39℃台の高熱、体の倦怠感、発疹を訴え受診。受診時に膝裏にダニに刺された痕あり。
6月	倉吉市	38℃台の発熱、頭痛、倦怠感を訴え受診後別の医療機関に入院。その他全身に発疹、肝機能機能異常、大腿部後面にダニに刺された痕あり。
9月	鳥取市	発熱、肝機能障害、血小板減少、大腿部にダニに刺された痕あり。その他全身紅斑。
9月	鳥取市	発熱、体幹・四肢に発疹。
9月	倉吉市	38℃台の発熱、倦怠感、筋肉痛、全身に発疹、腹部にダニに刺された痕あり。
9月	岩美町	町内在住の住民が発熱、全身に発疹、倦怠感、関節痛を訴え受診。検査により肝機能障害あり。
10月	岩美町	38℃台の発熱、倦怠感、発疹で受診。肝機能障害あり。腹部及び背部にダニに刺された痕あり。
10月	岩美町	発熱、発疹で受診。肝機能障害あり。膝裏にダニに刺された痕あり。
10月	鳥取市	発熱、体動困難となり救急搬送・入院。体幹・下肢に発疹、肝機能障害あり。膝裏にダニに刺された痕あり。

《日本紅斑熱について》

原因となるリケッチアを保有するダニに刺されることにより感染する日本特有の病気。原因や症状が似ていることから、ツツガムシ病と比較をされることが多い。症状は、マダニに刺されてから2～8日の潜伏期を経て発熱、発疹等があり、ツツガムシ病同様ダニの刺し口が認められる。

治療はテトラサイクリン系等の抗生物質を使用するが、SFTS同様、マダニに刺されないよう予防策（ダニ忌避剤（ディート剤）の使用や服装に注意）を講じることが重要。